忘れないで、備えの大切さ

防　災

今金町では、平成５年に南西沖地震で家屋の倒壊や道路の陥没などが起こり、平成 28 年、29 年の台風、昨年７月の大雨と、幾度となく自然災害に見舞われてきました。

防災・減災は、まず自分の命を守ることが基本です。いざというときに身を守る行動がとれるように、何ができるか考え準備をしておきましょう。

いざというとき、すぐ動けるように！

- 自宅周辺の災害危険箇所や避難場所を知っていますか？
- 避難方法や集合場所を家族やご近所さんと確認していますか？
- 非常持出品の準備はしていますか？

※平成29年台風18号

自宅周辺の災害危険個所や避難場所を知っていますか？

今金町の災害危険箇所

今金町には『後志利別川の洪水浸水想定区域』と『土砂災害危険箇所』が指定されております。

洪水浸水想定区域では、市街地に至っては国道より南側はほぼ浸水区域になっており、また、町内で地すべりやがけ崩れのおそれのある箇所は 58 箇所あります。

避難場所、避難方法

避難所は 24 箇所あります。

災害の種類や状況によって避難場所が変更になる場合がありますので、町の避難指示に従って避難してください。



←災害危険箇所や避難所は『今金町防災ガイドマップ』に掲載していますのでご確認ください。

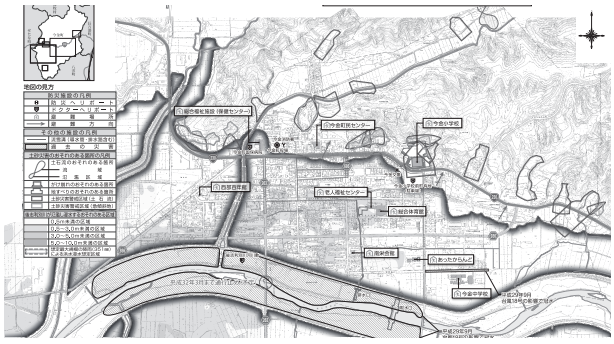
お持ちでない方は、役場くらし安心課までご連絡ください。

特別警報について

「特別警報」は、「東日本大震災」や「伊勢湾台風」といった、誰もが一度は聞いたことがあるような大災害が起こるおそれがあるときに、住民の皆さんに最大限の警戒を呼びかけるものです。

特別警報が発表された場合は、これまで経験したことのないような非常に危険な状況にあります。ただちに町の避難情報に従うなど適切な行動をとってください。





↑ 今金町防災ガイドマップより

試験的に12時15分といたします

避難方法や集合場所を家族やご近所さんと確認していますか？

災害が発生したとき、お互いの安否を確認できるように、日頃から安否確認の方法や集合場所などを家族で話し合っておきましょう。

① 災害用伝言ダイヤル

被災者の家族等が、全国どこからでも伝言を再生して安否を確認できたり、被災者に対する伝言を録音したりできるサービスです。

大災害発生時に、局番なしの「１７１」に電話をかけると、安否などの伝言を録音することができます。

② 災害用伝言版

大災害発生時には、携帯電話各社のポータルサイトのトップメニューに「災害用伝言板」へのリンクが表示され、被災地域の方が自らの安否を文字情報によって登録することができます。

また、登録された伝言は各社の携帯電話やパソコンなどで、電話番号をもとに検索することで閲覧することができます。

非常持出品の準備はしていますか？

なぜ、食品の備蓄が必要なのか

災害などで食料が手に入りにくくなったときに備えるためで、過去の例では、災害発生からライフラインの復旧まで１週間以上かかるケースがほとんどで、災害支援物資が届かないことや、スーパーやコンビニで食品が手に入らないことも想定されます。



どれだけの備蓄が必要？

できれば１週間分くらいの食品を家庭で備蓄しておくことが重要です（最低でも３日分）。

万が一、日常生活とかけ離れた事態が起こったとしても、温かく栄養バランスのとれた食事があれば、心と体が満たされます。

※水とカセットコンロは必需品です。
備蓄の目安は次のとおりです。
▼大人１人１日分の備蓄の目安
- 水　：３L 程度
- ボンベ：１本弱程度

非常持出品の種類

□貴重品
預金通帳、印鑑、保険証、免許証など

□避難用具・タオル
上靴、ヘルメットや防災ずきんは一人一つ必要

□応急医療品
マスク、絆創膏、消毒液、包帯、常備薬、お薬手帳など



□生活用品
防災ポーチ、缶切り、ライター、ナイフ、携帯用トイレなど

□ラジオ・懐中電灯
予備の乾電池も準備
懐中電灯は一人一台が望ましい



□非常食、飲料水（１週間分）
主食、おかず、デザート、飲料など



□衣料品
下着、靴下、長ズボン、長袖、防寒着など



□その他
乳児や高齢者など、ご家族に合わせた必要なもの



防災備蓄庫が完成しました！

防災備蓄品を一元的に集約することにより、管理等の簡素化や保存環境の向上による長寿命化が図られます。

また、備蓄庫には直接車両が出入りでき、スムーズな運搬が可能となります。

現在は避難所用テントやマット、毛布などが保管されています。





９月１日から、防災行政無線の昼の放送時間を